

# 論点

スペシャル

# デジタル教科書の拡大

中央教育審議会の作業部会が、紙と同様にデジタル教科書を「正式な教科書」に位置づけることを提起している。作業部会では、国民や教育関係団体からの意見を踏まえ、今秋までに結論をまとめ、見通しだ。デジタル教科書の特性について、識者<sup>3</sup>氏に聞いた。

**□ デジタル教科書** 学校教育法の改正により、2019年度から紙の教科書に代えて制度上使用できるようになった代替教材。紙と同じ内容をデジタル化したもので、学習用端末などで見られる。24年度から小中学校の英語と、算数・数学の一部で導入されている。

東京大教授

酒井 邦嘉 氏



さかい・くによし 東京大大学院理学系研究員研究員などを経て現職。専門は言語脳科学。著書に「デジタル脳クライシス」など。60歳。

人間の脳は、いつ、どこで、誰が、何をしたかをエピソードとともに覚える。紙の教科書であれば、どのページのどこに書かれていたかの位置関係や、手触りといった様々な手がかりがあり、内容を深く記憶することが可能になる。

NTTデータ経営研究所や日本能率協会マネジメントセンターと行った共同研究では、紙の手帳に予定を書き留めると、スマートフォンなどの電子機器を使う時よりも短時間で記憶できた。手帳に書き込んだ内容を思い出す時の脳の状態は、電子機器より、言語、視覚、記憶に関する領域の血流が増え、活発に

働いている様子が確認された。海外の研究でも、紙の方が脳の働きを促し、理解度を深めることが判明している。

スウェーデンのカールスター大学などが行った実験では、大学生を二つのグループに分け、パソコンの画面と紙とで同じ内容を読んだ際の理解度を比較した。一つのグループは電子ファイルにした文章をパソコンの画面で読み、もう一方は印刷した紙で読んだ。読解テストを実施したところ、紙で読んだグループの方が成績が高かった。紙の方が、与えられた情報を脳の中で関連した記憶と結びつけ、よりよく理解することができていた。

ノルウェーでも高校生を対象とした同様の実験が行われ、こちらも結果が同じだった。ノルウェーでも高校生を対象とした同様の実験が行われ、この結果は、紙の方が理解度が高くなるという結果だ。

国は学習用端末を配備し、教育のデジタル化を急ピッチで進めようとしている。だが、デジタルの利点は教育において、むしろ裏目に出ることが多い。最近の教科書にはデジタル教材につながるリンクが多く載っているが、情報過多となり、逆効果だ。リンクがある度にそのまま読み進めるかどうかの判断を迫られる結果、思考を巡らせながら読むことができなくなったり、理解の妨げとなる。

検索機能や動画の視聴など、様々な機能があるほど便利になるが、その一方で思考力や創造力が奪われ、人間は脳を使わなくなってしまう。

偉大な科学者たちは紙の本とノートで学び、革新的なアイデアを生み出してきた。子どもたちの脳の成長を促すためには、紙を使用した質の高い教育が欠かせない。(教育部 渡辺光彦)

現状	位置付け	2030年度以降	
		教科書の形態	採択(選定)
紙の教科書の「代替教材」	紙のみ	正式な教科書に	①紙 ②デジタル ③紙とデジタルを組み合わせた「ハイブリッド」
紙の教科書の中から選ぶ	紙のみ	紙、デジタル、ハイブリッドのいずれかを選ぶ	紙、デジタル、ハイブリッドのいずれかを選ぶ
紙のみ	無償配布	デジタルも対象に	デジタルも対象に

中央教育審議会で議論されている  
デジタル教科書の方向性

## 紙媒体 脳の働き活発化

ちらでも紙で読んだグループが良い成績を上げた。

文部科学省は、国内外のエビデンスに基づいて検討を重ねた上で、デジタル教科書を導入するかどうかの議論を行うべきだ。こうしたプロセスを経ずに、デジタル教科書を「正式な教科書」に位置づければ、原因不明の学力低下を招きかねない。

国は学習用端末を配備し、教育のデジタル化を急ピッチで進めようとしている。だが、デジタルの利点は教育において、むしろ裏目に出ることが多い。

最近の教科書にはデジタル教材につながるリンクが多く載っているが、情報過多となり、逆効果だ。リンクがある度にそのまま読み進めるかどうかの判断を迫られる結果、思考を巡らせながら読むことができなくなったり、理解の妨げとなる。

検索機能や動画の視聴など、様々な機能があるほど便利になるが、その一方で思考力や創造力が奪われ、人間は脳を使わなくなってしまう。

偉大な科学者たちは紙の本とノートで学び、革新的なアイデアを生み出してきた。子どもたちの脳の成長を促すためには、紙を使用した質の高い教育が欠かせない。(教育部 渡辺光彦)